

C

☆ 記入例

氏名	福島 花子	学年	5
----	-------	----	---

●本人が教科学習で抱えている制約や困難さ

①見えにくさ ②聞こえにくさ ③道具の操作の困難さ ④移動上の制約
⑤健康面や安全面での制約 ⑥発音のしにくさ ⑦心理的な不安定
⑧人間関係形成の困難さ ⑨読み書きや計算等の困難さ ⑩注意の集中を持続することの困難さ
 (他) 記憶することの苦手さ 自由に表現していく困難さ
 その他
 ○一斉指示の時に、伝わりにくいことがある。個別に伝えれば、伝わる。注意の集中を持続することが難しいため、指示を聞き逃している可能性がある。

障がい名等	ASD ADHD
-------	----------

*その他 必要な情報は、個別の教育支援計画に明記している。

●「きめ細かな学習をするために」各教科の困難さにおける指導内容や指導方法の工夫

実施期間 R×年 4月×日 ～ 評価 R×年 3月×日

教科	配慮番号	●困難さ○指導の工夫の意図、手立て	評価
国語	⑨	●読みの困難さ ○自分がどこを読むのかが分かるように、読む部分だけが見える自助具（スリット等）を活用する。	・スリットを活用することで、自分で読みの練習ができた。今後も継続。
算数	① ⑩	●グラフの中の情報への注目の困難さ ○グラフでどのような部分に注目すればよいか、印を付けて確認するようにする。慣れてきたら、印を付ける部分を本人と確認し、自分で注目する点について気付くことができるようにする。	・棒グラフについては、目的に応じた情報を読み取ることができるようになった。他のグラフの読み取りについても今後も、継続していく。また、他教科でのグラフの読み取り等の関連も図るようにする。
体育	⑦ ⑧	●勝ち負けにこだわり、心理的に不安定になる困難さ ○状況に応じた感情のコントロールができるよう、事前に勝ったときや負けたとき等の感情の表し方について確認する。	・事前に確認することで、負けた時でも、切り替えて活動ができてきた。徐々に、この配慮はなくても大丈夫。
家庭	⑩	●周囲の状況に気が散り、用具を安全に使うことの困難さ ○手元に集中して安全に作業に取り組めるよう、個別の対応ができるような作業スペースや作業時間を確保する。	・個別スペースで安全に取り組むことができた。今後も継続。

全体的に共通する配慮事項

読み書きへの不安から、学習のまとめで、考えを記述する時に、心理的に不安定になることがある。口頭で、学習内容について確認していく。

その他、教育内容・方法については、個別の教育支援計画の合理的配慮を確実に実行していく。